

Kwansei from Kobe — 原田の森アイデンティティー
関西学院同窓会神戸支部 2016年7月23日
関西学院院長 関西学院大学教育学部教授 田淵 結

本年創立127周年を迎える関西学院は、現在七つのキャンパスに10の学校を擁し、幼稚園児から大学院学生まで総数2万7千人を数える総合学園としての歩みを続けています。しかし、今日は現在のその姿の原型ともいべき、関西学院のアイデンティティーなるものは神戸、原田のキャンパスでしっかりと形成されたということをお話し、関西学院にとっての神戸という町の意味、だからこそ神戸支部の皆様はその原点をしっかりと確認していただきたいということです。

ランバス先生が学院を創立して20年後に関西学院は存立の危機を迎えます。そこで着任されたベーツ先生たちの働きを加えて、その20年後には関西学院は大学を設立することになるのです。いかにその時代の動きが大きかったか、ちょっと今では想像もできないぐらいです。それからの関西学院については、今日のお話の後編としてまた後日にお話をさせて頂くことにして、そこで今日のお話のまとめをさせて頂きたいと思います。すでに最初にお話ししたように、現在の関西学院の原型は、すべて神戸原田で創られたということです。

なんといっても学校の組織です、神学部、普通学部という精神性、人格的教育の基本に加えて、文化さらにビジネスという人間の社会営みを学ぶ学園構成、それは実は今の関西学院大学の基本形です。第二にその基盤となるキリスト教主義のあり方です。声高に信仰第一、教義を主張するのではなく、すべての人に受け入れられ理解される仕方、人間にとってもっとも核心的なメッセージを訴えるという意味でも、Mastery for Service が私たちに語りかけるのは今後も非常に大きなものがあります。キャンパスの雰囲気、のちにキャンパスユートピアと称される彼の作品のなかで育まれる人間性の豊かさ、それが上ヶ原にも継承されていったのです。そして最後に私が皆様に訴えたいのは「校名」です。皆さんは関西学院の校名をきちんと語っておられますか？

1932(昭和7)年、関西学院に、上ヶ原移転、大学開設を記念して新しい校歌『空の翼』が同窓の山田耕筈氏の作曲、山田氏の畏友である北原白秋氏の作詞によって与えられます。そのなかで「関西、関西、関西、関西学院」と「関西」という名前が3度(くどいように)繰り返されます。私は、山田氏が関西学院の本当の名前は“KWANSEI”だと強調したかったのではと思っています。それまで学院の校歌としては米国プリンストン大学の”Old Nassau”による“Old Kwansei”が歌われていました。その歌は、‘Banzai, Banzai, Kwansei!’と締めくくられます。校歌を通じて、漢字で「関西学院」と記される校名の、私たちだけの本当の読み方は’Kwansei’だと教えられているのです。関西から世界市民を生み出す学校として、ローマ字表記はそのまま世界に通用します。私たちはもっとその呼び方を大事にしなければなりません。

関西学院(Schools of Kwansei)は上ヶ原移転後さらに発展します。しかしそのとき、学院が決して忘れることなく、記念し続けるべきものは、原田キャンパスで培われた私たちの原型なのです。それがあからこそ、私たちはランバス先生以来の私たちのすべての先輩と同じ関西学院につながることを確信できるのです。We are Kwansei!

自己紹介に代えて

田淵 結(たぶちむすび)1950.11.芦屋市出身。関西学院大学文学部卒業後、神学部、大学院神学研究科修了。神戸丸山教会牧師の後、関西学院大学文学部宗教主事(やがて教授)から教育学部宗教主事(教授)。関西学院大学宗教主事、関西学院宗教総主事を歴任。現在関西学院第16代院長。主な研究対象は旧約聖書学、キリスト教学、さらにヴォーリズ研究など。